



令和元年8月20日発行 中等新報第18号
新潟県立村上中等教育学校長 吉井 裕也

進路講話 ～ 私は受験をこうやって乗り越えた！ ～



自分が経験した受験勉強の要点を、分かりやすく説明してくれた中村光佑さん(左)と高澤芳野さん

夏季講座の後半戦を目前に控えた8月19日(月)、4年生と5年生が、この春卒業した先輩から大学受験に臨む心構え等について話を伺いました。帰省中で忙しいなか、後輩たちのために駆けつけてくれたのは、以下の5人。**中村光佑さん(東北大学)、高澤芳野さん(新潟県立大学)、佐久間美花さん(新潟県立看護大学)、阿部愛さん(新潟大学)、竹内菜さん(群馬県立女子大学)**。それぞれが伝えてくれたアドバイスを簡潔に紹介します。

- 〔中村さん〕・英単語の学習は、間を空けずに計画的にやる。志望校が確定していない人は、6年の7月までは高めに設定してモチベーションを上げる。志望校を絞り込むのは、6年の秋以降でよい。
- 〔高澤さん〕・受験勉強の核になる「得意教科」を作る。学部学科調べは早いほうがよい。積極的に先生に質問すること。
- 〔佐久間さん〕・模試の活用が大事。「もしも亀よ。亀さんよ」→「模試、模試、噛めよ。噛め三回」。模試が終わった直後、1週間後、模試結果が返却されたとき、この三回問題を解き直す。「新書」を読み込んでおくと、小論文の材料が増える。
- 〔阿部さん〕・4、5年生のうちに、地歴や理科の知識をしっかりとし身に付けておくと、受験期にずいぶん楽になる。受験勉強のみで過ごすのはきつい。何か気分転換できるような趣味があると、最後までつぶれずに済む。
- 〔竹内さん〕・初め現代文が全くダメだったので、先生お薦めの問題集を1日1題、毎日やった。次第に記述の解法が分かってきて、やれば伸びるという実感が持てた。記述模試が終わった後は、じっくり時間をかけて解説を見直した。英語の長文対策は、先生のアドバイスに従って音読を欠かさずやった。先生方の助言に素直に耳を傾けたほうがよい。

言葉を選びながら、丁寧に話しかけてくれたOGの皆さん。左から、阿部愛さん、佐久間美花さん、竹内菜さん。



新潟県立村上中等教育学校

〒958-0031 村上市学校町6番8号 TEL.0254-52-5101 FAX.0254-53-6773
HPアドレス <http://www.murakami-ss.nein.ed.jp>